特集

国立西洋美術館へ行こう！

東京・上野公園内に位置する国立西洋美術館。
世界文化遺産にも登録され、
西洋美術を専門とする、日本随一の美術館です。
今回の特集では、所蔵作品から
力を入れている取り組みまで、
その魅力をたっぷりとご紹介します。

撮影 永野雅子　イラスト SANDER STUDIO
協力 国立西洋美術館

2022年のリニューアルオープンに際して、
開館当時の姿にできる限り近づけられた前庭。
開放的な空間に配置された
ロダンの彫刻作品が、来館者を出迎える。

INFORMATION

国立西洋美術館

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
開館時間　9:30～17:30
　　金・土曜日　9:30～20:00
　　※入館は閉館の30分前まで
月曜日休館（祝休日の場合は翌平日）
https://www.nmwa.go.jp/

日本では過去最大規模の、クロード・モネ《睡蓮》が集う、「モネ 睡蓮のとき」展を開催中。
（会期：2024年10月5日～2025年2月11日）

生徒たちにここを見てほしい！



修学旅行などでも訪れる機会が多い国立西洋美術館。
特に着目してほしい点をご紹介します。



日本唯一のル・コルビュジエ建築

20世紀を代表する建築家である、ル・コルビュジエ［1887～1965 スイス］。国立西洋美術館は、日本で唯一のル・コルビュジエによって設計された建物だ。常設展示室に入るとすぐ「19世紀ホール」（左写真）がある。ル・コルビュジエによって名づけられたここは、吹き抜けの空間となっており、三角形の天窓からは、やわらかな自然光が差し込む。奥に見える2階へ続くスロープからは、登るにつれ変化する景色を楽しむことができる。



19世紀ホールを取り囲むように配置されている展示室。
せり出した回廊状の小部屋は天井の高低差を
生み出すとともに、室内に光を届けている。

高等学校教科書『美術1』 P.64 ～ 65では、
ル・コルビュジエの生涯と作品について詳しく解説しています。

西洋美術史を学べる常設展

国立西洋美術館には、約6,000点の作品が所蔵されている。常設展では、14世紀から20世紀半ばまでの作品が時代順に展示されているため、西洋美術史のおおまかな流れを学ぶことができる。中学校・高校の教科書に掲載されている、美術史年表を片手に鑑賞すると、より理解が深まりそうだ。ロダン、モネ、ピカソなど、教科書に掲載されている作家の作品も多数展示されている。





三連祭壇画：キリスト磔刑　油彩、板
中央部:116×83㎝　両翼部:117×36㎝　16世紀前半
ヨース・ファン・クレーフェ［1485年頃～1541年頃 南ネーデルラント］

磔（はりつけ）にされたキリストを中心にして、人々が集います。横のパネルにいる男女はこの絵の注文主。二人は絵の前で、まさにこのポーズで祈りを捧げたことでしょう。しかしなんといってもこの絵を特徴づけるのは、背後に広がる風景です。視点を高く取ることで深い奥行きが与えられ、そこには山や川、町など、この世に存在するあらゆるものが細かく描き込まれています。視線を動かし世界を旅することが、すなわち絵を観る喜びとなります。

外せない作品5選!

高等学校『美術』教科書の
編集委員を務める渡辺晋輔先生に、
美術館に訪れたらぜひ観てほしい作品を、
5点選んで解説していただきました。



渡辺晋輔（わたなべしんすけ）
国立西洋美術館学芸課長。
専門はイタリア美術史。「アルチンボルド展」
「ルーベンス展―バロックの誕生」などを企画担当。



ルーベンスはとても家族思いの人でした。仲がよかった兄が亡くなった後は、親代わりとなってその子供たちを可愛がりました。この絵にはそんな画家の心情がにじみ出ています。素早い筆づかいと的確な色彩によって、二人の子供はまるで画中で息をしているかのようです。実はルーベンスは、別の絵を描く際の参考とするために、この絵を描きました。二人の顔はそれぞれ別の大きな絵のなかに、天使として登場します。

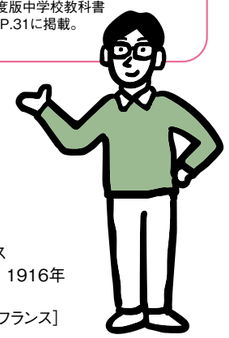


眠る2人の子供　油彩、板
50.5×65.5㎝　1612～13年頃
ペーテル・パウル・ルーベンス［1577～1640 ドイツ］

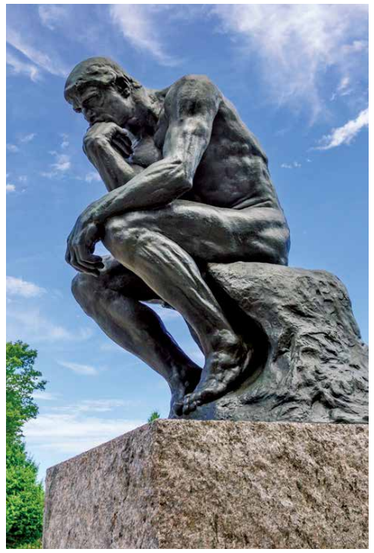


モネは50歳を過ぎた頃、パリからセーヌ川を下った小村ジヴェルニーの自邸の敷地に庭園をつくります。そこには睡蓮を浮かべた池もありました。彼は時や天候によって表情が変化する池の様子を、繰り返し描きました。この絵に取りかかるまでに、実に20年以上も睡蓮を題材にし続けています。水面に浮かぶ睡蓮、水中の様子、反射する空や木立を、大胆な筆づかいによって描く表現方法は、後の美術を予告するものです。

※令和3年度版中学校教科書
『美術2・3』P.31に掲載。



睡蓮
油彩、キャンヴァス
200.5×201㎝　1916年
クロード・モネ
［1840～1926 フランス］

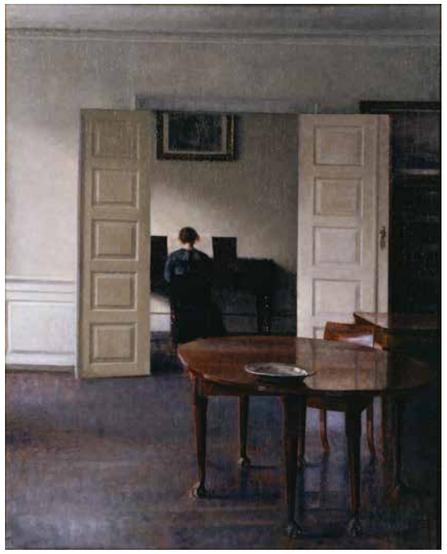


ロダンは当初、詩想にふける詩人ダンテとしてこの像を構想し、巨大な彫刻《地獄の門》の一部に、このポーズを取る小さな像をはめ込みました。その後、《地獄の門》から独立した彫刻となった結果、この像は思索し何かを創造する、普遍的な人間を表すようになりました。ただ思索しているだけの像ですが、そこには確かに生命や人間性が感じられます。ロダンが「近代彫刻の父」と言われるゆえんです。

※令和7年度版中学校教科書『美術2・3』P.99、高等学校教科書『美術1』P.109～110に掲載。

考える人（拡大作）
ブロンズ　高さ186㎝
1902～03年
オーギュスト・ロダン
［1840～1917 フランス］
撮影：©上野則宏

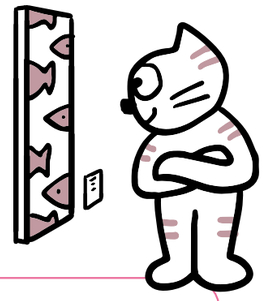
ピアノを弾く妻イーダのいる室内
油彩、キャンヴァス
76×61.5㎝　1910年
ヴィルヘルム・ハンマースホイ
［1864～1916 デンマーク］



日常の一瞬を切り取ったかのように見えますが、よく見ると違和感に満ちています。ぽつんと机に載せられた銀の皿、一脚しかない椅子、図柄のわからない版画。そして何より、顔の見えない妻と、ピアノの音がまったく聴こえない静寂な世界。19世紀末のデンマークの画家ハンマースホイは、日常を題材にしつつ、謎めいた雰囲気を描き出しました。

教育普及活動のご紹介

美術館では、より多くの人に美術に親しんでもらえるよう、
日々さまざまな活動が行われています。
その中から、学校向けのプログラムをご紹介します。



教員研修

学校の先生向けの美術館利用や鑑賞教育に関する研修。
内容は、参加者の希望に合わせて構成する。
今回は、2024年8月の、埼玉県高等学校美術・工芸教育研究会の研修の様子を紹介する。



楽しみながらアートカードのワークショップに取り組む先生方。



職員が、美術館の効果的な活用のしかたを丁寧に紹介。

主な流れ(約2時間)

ワークショップ

この日はアートカードを使ったワークショップが行われた。アートカードは、鑑賞の授業が苦手な先生でも取り組みやすいツールだ。参加者は実際にアートカードを使って、そのよさを実感していたようだ。

※「国立美術館アートカード・セット」は、国内の国立美術館の作品を収録。

↓

講義

職員が美術館の活用のしかたや、美術館が提供する鑑賞教材を説明。高校生は常設展を無料で観覧できることや、美術館のウェブサイトにはさまざまな鑑賞教材が用意されていることなど、耳寄り情報が盛りだくさんだ。

↓

自由時間

常設展や企画展の作品を自由に鑑賞。

\ 国立美術館が関わる /
鑑賞教材のご案内

詳細はこちらから。

- **アートカード・セット**
- **鑑賞素材ボックス**
  端末上で高精細作品画像を鑑賞することができる
- **ソーシャルストーリー**
  誰もが安心して美術館を楽しむためのガイド
- **アクティビティブック**
  常設展や建物を楽しむためのワークシート集

参加された先生方の声

●近年、鑑賞教育が重視されるようになってきました。ただ、鑑賞の授業をどう行ってよいかわからないという先生が多いため、研修を設定したいと思い、今回申し込みをしました。(研修担当・S先生)

●鑑賞の授業は難しいイメージがありましたが、今回の研修を受けて、美術館を利用した鑑賞の時間をもっと増やしていきたいと思いました。(T先生)

●自分は特別支援学校が併設されている学校に勤務しているので、特別支援の人向けの教材について、相談できる点がとてもよいと思いました。(K先生)

スクール・ギャラリートーク

時代やジャンルが異なる絵画作品2点、彫刻作品1点を鑑賞する対話型のギャラリートーク。
子供たちは10人以下のグループに分かれ、ボランティアスタッフとともに、各作品を鑑賞して回る。



《地獄の門》を鑑賞する生徒たち。

主な流れ(約2時間)

鑑賞&トーク

常設展で展示されている作品を3点、対話しながらじっくり鑑賞。子供たちは、作品を鑑賞して感じたことや考えたことを自由に話し合う。ボランティアスタッフは、子供が主体的に鑑賞できるよう、サポートする。鑑賞する作品は、グループや時期によって変化する。

〈鑑賞作品例〉

●オーギュスト・ロダン《地獄の門》
●カミーユ・コロー《ナポリの浜の思い出》
●ジャクソン・ポロック
《ナンバー8, 1951　黒い流れ》

↓

自由時間

常設展の作品を自由に鑑賞。

※両プログラムは美術館のウェブサイトより、申し込みが可能です。

2024年内に完成予定! 「みんなの3Dロダン図鑑」って?

回転・拡大して鑑賞!

どんなコンテンツ?

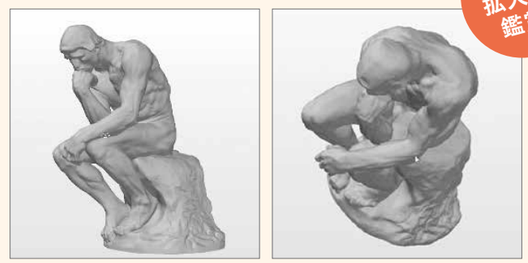
国立西洋美術館が誇る、オーギュスト・ロダンの彫刻作品全60点を、3Dでデータ化し、特設サイト「みんなの3Dロダン図鑑」として公開!3Dモデルは自由に回転したり、拡大したりすることができるため、作品を細部まで鑑賞できる。普段は観ることができない視点から、ロダン作品を楽しもう。

何のために?

豊かなロダンコレクションを、より多くの人に見てほしいという思いから、企画は生まれた。また、このコンテンツは作品の「デジタルアーカイブ」の役割も担う。学校現場での活用はもちろん、万が一の災害などに備えて、作品の細部を精確に記録しておくことができる。

どのようにつくる?

特殊なスキャナーを用いて作品を3D計測し、データ化。この3D計測は、LEDの光を照射し、光の反射によってデータを取得していく。



完成イメージ



スキャナーでの計測の様子。

